

桜の聖母短期大学
親と子の広場

小さなクラスの

さくらっこだより

火・金曜日

2015年7月号

ミリアム館（駐車場近くの建物）で工事が始まりました。親と子の広場の移転に伴い、1階部分を改修し保育室を作っています。常に「より良く」という思いがありますが、その場にいる私たち「人」がその空気を作っていくのだと思います。子どもが主役、親が主役、スタッフも主役となって「私たちの広場」を作っていきましょう。

個人差が大きい乳幼児期。心配したり、安心したり、心は揺れます。一人で悩まず、子育て中のみんなと話してみましょ。自分の子どもも、他の人の子どもも「互いに育ち合える」よう、大人達で見守りたいものです。

「見守る」とは、どういうことでしょうか。子どもが考え行動しているとき、大人は口を出さず手を出さず、見ていることです。子どもは経験して学ぶからです。何か起きた時、大人の番です。そこで、子どもの気持ちをどう支えるか、大人の生き方、価値観を示してあげましょ。勿論、危険な場合は見守っている場合ではありません。子どもが不安で何もできないでいる場合も見守っている場合ではありません。愛情を込めて、しっかりかかわってあげましょ。

ステキな親子がいっぱい！

親と子の広場で出会った保護者の皆様からいつも教えられます。育児は「やり方」ではなく「在り方」だと。我が子のために一生懸命になっている姿を見て、その思い（愛）は子どもに伝わっているだろうな…と感じさせられます。この時期、親と子の関係がしっかりできていれば、今後何があろうと、真剣にけんかしたり、お互いに謝ったりしながら「親は自分のためにそうしてくれたんだ」と感じられると思います。

今回は、広場でのステキな親子のエピソードをご紹介します。

自分の世界 ～お母さんも体力勝負！～

Aくんは、空も飛べる勢いでやりたいことにまっしぐら。声を掛けられても、目はその先を見ている。お母さんは、座っていることが少なく、常にAくんの後を走って追いかけています。お母さんは体力勝負ですね。お母さんのお話によると、集団の場では、子どもの頭を叩いたりしてしまうそうです。自分の世界を邪魔されるのが嫌なのでしょうね。誰もが「相手のお子さんに申し訳ない…」と気にしてしましますが、子ども同士、お互いがお互いの気持ちを知るチャンスと捉えて、どちらの親子も子どもの気持ちを代弁し共感してあげてくださいね。



今日は家庭で ～子どもに合わせたお母さん～

今日のMくん（2歳11か月）は、大好きなパーシーを手に取り、好きなおもちゃにまっしぐら。その積極的な姿に喜んでいましたが、今日はいつもより参加者が多く、しかも遊びが激しく、Mくんは落ち着けなくなっていました。そこで「今日は人が多いので帰ります」とお母さん。そう判断できるお母さんはすごいと思いました。お子さんの様子を見ながら、広場への参加の仕方を判断されることは大切です。みなさんも、お子さんの気持ちや疲労度を考えて、「広場」を上手に活用してください。

虫のかくれんぼ ～お母さんの見守り～

「どこへ行っても、N は先生が大好きなんです。親のかかわりが良くないからでしょうか…」とお母さん。「それは、今までお母さんがNちゃんにしっかり向き合ってきたからNちゃんは外に目を向けるようになって、他の人との関係を求めているのだと思いますよ」と私。今日もNちゃんの好きな「ひっつき虫」で遊びました。「Nちゃんに見つからないよう隠れよっと！」と小声で言いながら虫を穴に隠しました。Nちゃんは9匹全部集めるまで真剣。何度も繰り返して遊びました。この様子を、お母さんは少し離れたところから見守り、時々虫になって「ここだよ」などと声を掛け、参加していました。

遊びはどんどん広がり、カップで「虫のかくれんぼ」。Hくんと一緒に混ぜてきた時「いいよ」といってカップを2個だけ渡し、あとは自分で確保！虫も1匹だけ渡し、他は自分のカップに入れて確保していました。しっかり者です！



真剣な表情 ～いい表情ですね。お母さん～

Kくん（1歳10か月）は、今日で2回目。真剣な顔で滑り台やショベルカーなどで遊んでいます。その後をお母さんが追いかけています。帰り際「慣れるのに時間が掛かって笑顔じゃなくてすみません」とお母さん。そんなこと気にされていたんだ…と気付きました。私はKくんの表情を「真剣そのもの」と肯定的に見ていました。しっかり考えて行動するいい顔しているなあと。

保育所に入所します ～お母さんも頑張ってください！～

Rくんは広場にも慣れ、ハイハイに興味のある方に行ったり、行動的になってきました。机につかまってつかまり立ちも上手にバランスを取っています。来月からの保育所入所が急に決まったとのこと。お母さんもお仕事復帰です！新しい生活に慣れるまで、Rくんもお母さんも「頑張ってください！」

さくらっこのみんなで応援しています！



もうすぐ赤ちゃん誕生～上の子を気遣うお母さん～

お母さんのおなかが大分目立ってきました。もうすぐお兄ちゃんになるHくん（1歳10か月）。今日は、山（大型遊具）に登って下りて・・・を繰り返して遊びました。お母さんが手を添えようとしても、そちらに背を向け、一人でバランスをとっています。「ぼくは一人でできるんだぞ！」とその背中が言っているようでした。「一人で登れたことに驚きです！」とお母さん。お母さんはいつもHくんに何でも話して聞かせるようです。子どもだから言っても分からないとは思わず、大人と同じようにきちんと理由を話すそうです。「Hは、分かっ



ているようです」とお母さん。今度、初めて保育所の一時預かりを利用するそうです。お母さんの「お昼になったら迎えに来るからね」の言葉もじっと聞いて理解し、待っていることでしょう。いつも言ったことは守ってくれるお母さんをHくんは信じているのです。お母さんの真摯な姿勢がHくんの今の穏やかさにつながっているように思えます。

二人の子育て ～一番忙しい時期…でしょうか～

Mくん（2歳7か月）とHちゃん（1歳4か月）の二人のお子さんのお母さんは、今、まさに大変な時ではないでしょうか。どのお母さんも「二人目が生まれたときが一番大変だった」「あまり覚えていない」と言います。

Mくんは、やりたい遊びに次々にトライしています。その様子をハラハラしながら目で追っているお母さん。妹のHちゃんはじっくり遊ぶタイプでしょうか。ブロックをゆるくつないで渡すと、それを一つずつ外すことが楽しいらしく、しばらく夢中で遊んでいました。お母さんはその様子をやさしく見守っていました。

ご家庭では、きっと目が回るような忙しさではないでしょうか。そんな時期に力になりたいと私たちは思っています。

（私も子育て中はたくさんの人に助けていただきましたから、今は恩返しの間だと思っています）



ことばを育むかわりを大切にする中で

健診で発達やことばの遅れを指摘された時のお母さんやお父さんの戸惑いについて考えてみました。（狩野奈緒子）

●Sくんは、最近指を指しながら「ぼー」「ぶー」と教えてくれるようになりました。お母さんが「ぶただね」などと応えると安心するような表情です。

でも、お母さんはわかって、おばあちゃんや近所の人などは、意味が分からなくて首をかしげてしまうのです。いつになったら正しい言葉が話せるようになるのかお母さんは心配をしていました。1歳半健診の時「言葉がまだ出ていない」ことについて、保健師に相談をすると、「少しゆっくりでしょうか・・・もう少しこの後の経過を見てみましょうね。」と言われました。

保健センターで行われる発達健診（1歳半・3歳児*2歳半は自治体による）は、お子さんはもちろんお母さんやお父さんにとっても「ドキドキ」の連続です。そこで「言葉の遅れ」「発達の遅れ」について指摘されたとき、「自分の子育てのどこが悪かったのだろう」と考えがちです。また、お母さんやお父さん方からは「では、どうしたらよいのかを教えてほしい」という声を多くお聞きします。

さて、「言葉」と漢字で書きますと、私たち大人が通常会話に使用する「音声言語」を想像することが多いですね。言語臨床や保育・教育の分野からお子さんを見ている立場では「ことば」と平仮名で表記する場合があります。その理由は、コミュニケーションの観点から考えると、例えばジェスチャーや表情、声のトーン、発声の様子など、すべて含めたものを「ことば」と捉えているからです。実は、コミュニケーションの9割以上が「非言語的」コミュニケーションから成り立つという研究もあります。

そう考えてみると、Sくんはしっかりコミュニケーションをお母さんと、とれていることがわかります。でも、お母さんや家族以外の人は、Sくんの「言いたいこと」が理解できない状態なのです。

このような場合、なんとか「正しい言葉」を早く教えたいと思うのが親心です。社会的に通用する正しい言語を正しい発音で、同年代のお友達と同じように話せないと、幼稚園に入ってから困るのではないか、と思われるのが当然ですね。Sくんのようにしっかりとコミュニケーションが特定の人と取れているのなら、しめたものです。Sくんのペースに合わせて、しっかりとSくんりのことばを周囲の大人が理解しながら応えていくようにしましょう。「正しい言葉」の育ちを焦ると、Sくんがコミュニケーションをとりづらくなってしまいます。

中には、周囲で何が起きているかを感じ、大人が「こうして欲しい」と思うことに応じにくいお子さんもいるかもしれません。そういうお子さんは、遊び方のマイペースや周囲の子どもや大人とかみ合いにくいために、お母さんやお父さんが苦勞なさる時があります。

そういう場合は、できるだけ落ち着いた場所で、大人と1対1のかかわりを大切にすることから始めましょう。じっくりとしたかかわりは、まずはお母さんやお父さんから始まりますが、徐々に少人数のお友達との集団の中で保育者などの大人との関係につながっていくとしめたものです。

どのような場合も、焦らずじっくりとお子さんが見えてくるとよいですね。どうぞ、さくらっこ広場もご活用ください。



学生の授業より

<7月の予定>

- 3日(金) プレイルーム
- 7日(火) プレイルーム
- 10日(金) プレイルーム
- 14日(火) プレイルーム
- 17日(金) プレイルーム
- 21日(火) プレイルーム
- 24日(金) プレイルーム
- 28日(火) プレイルーム
- 31日(金) プレイルーム

<8・9月の予定>

新保育室の改築・引越し、学校行事のため、平日クラスはお休みします。後期は、**10月2日(金)より、保育棟1階保育室にてスタートします。**
(土曜日クラスは、8月29日(土)より、保育棟1階 保育室にてスタートします)

親と子の広場のご案内

	小さな“さくらっこ”	“さくらっこ”
日時	火・金曜日 10:30 ~ 12:00	土曜日 10:00~12:30
場所	プレイルーム	プレイルーム
年齢	0歳~就園前	0歳~小学生
参加料	無料	500円(親子一組)(各回) 兄弟(3歳以上)はプラス300円
登録料 (保険料)	子ども一人当たり 300円(年1回) ※おうちの方と一緒に参加してください	
持ち物	特にありません ※日常、お出掛けの時に持参する飲み物や着替えなど、必要と思われるものを各自でご用意ください	
担当	桜の聖母短期大学 淋 光江 (土) 奥田美由紀 (火)(金) こども保育コース教員 ※こども保育コースの学生も勉強のため参加します。	